

教育実習生からのお薦め本

恒例の教育実習生による図書紹介です。皆さんの先輩たちはどのような本を読んでこられたのでしょうか。図書を紹介していただくとともに、インタビューにも答えていただきました。（みなさん本校の卒業生です。）

※図書記号のない本は、図書館には残念ながらありません。

お名前（担当教科）

◆図書を紹介

インタビュー

- ①今、学んでいること。 ②北野生時代にやりとげたこと。 ③北野生時代のちょっと後悔していること。
- ④現役生の皆さんへメッセージ

（理科・物理）

◆松尾スズキ 著『クワイエットルームにようこそ』 文春文庫

大人計画の松尾スズキが書いた小説。作者自身が映画にもしているのでそれと見比べるのも面白いです。主人公、佐倉明日香は目を覚ますと精神病棟の閉鎖病棟にいた。そのなかで、ナース江口・ミキ・栗田さん・西野・サエちゃんといった、様々な事情を抱えた超個性的な人たちに出会い、現実と向き合って自分自身を再生していくお話。何かを抱えて今の自分を再生してみたくなったとき、地の底を蹴ってもう一度飛び上がりたいとき、一度読んでみてください。きっと何かを感じられる作品だと思います。

インタビュー

- ①工学部・電子情報工学科
- ②部活動（陸上部）
- ③（良い意味で）もっと遊んでいれば良かったと思うこと。

（理科・物理）

◆幾本 伸司著 『神様のパズル』 角川春樹事務所

「宇宙を作ることができるのか？」という問題に立ち向かうことになった落ちこぼれ大学生と天才女子学生の奮闘を描いた青春 SF 小説。作中には、大学で学ぶような物理用語が使われていたり、SPRING-8 のような研究施設が登場したりと読んでいて難解に思う部分があるかもしれないが、それでも読んでいくうちに不思議と宇宙についてわかったような気分になります。また、この小説は、SF の要素を除いても学園青春小説として十分楽しめ、映画化もされた作品ですので、SF 小説に興味がないという方にもおススメできる一冊です。

インタビュー

- ①理学部・物理学科・地球内部物質学研究室(地球の核 core についての研究)
- ②木の葉バッジとハナニラバッジをそろえたこと。
- ③好きな人に告白すれば良かった・・・
- ④縄跳びがんばってください。

(理科・物理)

◆本田健 著『20代にしておきたい17のこと』大和書房(2010)

20代、とタイトルにあります。20歳になる前に読むことをお勧めします。「大好きなことを見つける」や「死ぬほどの恋をする」など、当たり前のことを書いてあるように感じるかもしれませんが、実際に行動するのは難しいことばかりだと思います。なので悩んで行き詰ってしまった時に読み返すことで、自分の行動指針として使うのも良いのでは？と感じた一冊です。

インタビュー

- ①生命科学部応用学科(生物・物理・化学を浅く広く学んでいます。)
- ②全く泳げなかったのに、高校三年間4泳法メドレー泳ぎきれたこと。
- ③木の葉バッジもハナニラバッジも取れなかったこと。
- ④みんな挨拶が元気で、めっちゃ感動しました！！

(理科・化学)

◆黒田達明 著『ようこそ、私の研究室 Discover』

大学の研究室ってどんなところ？どんな研究をしているの？という疑問を持ったことはありませんか？この本ではいくつかの理系研究室の、研究内容や研究室の様子、なぜその研究をしているのか、などについて研究者自身が語ってくれています。面白いお話から、興味深い研究内容に関するお話まで載っているので、理系に少し興味がある人・バリバリ理系な人どちらの方でも気軽に読めますよ。これを読んで次なる大学生活を想像してみてもいいかもしれません。

インタビュー

- ①理学部・化学科(有機化学を勉強しています。)
- ②部活。朝から夜まで部活していました。3年の夏も部活していました。部活のために学校に来ていた、と言えるくらいです。
- ③演習をもっとやっておけば良かった。部活だけでなくクラスの人と交流しておけばよかった。
- ④高校生活をエンジョイしてください。大学はまた違う雰囲気なので・・・。

(家庭科)

◆瀬尾まいこ 著『幸福な食卓』講談社文庫

913/S4/2

「父さんは今日で父さんを辞めようと思う」この一言から始まる普通だけど普通じゃない個性豊かな家族が主人公のこの本をぜひゆっくりと味わうように読んでもらいたいです。家族って何？食べるって何？生きるって何？愛するって何？夫婦って何？普通って何？そういうことを考えさせられる小説です。今まで考えたこともないような普通のことを見つめなお、そんなきっかけになるんじゃないかな、と思います。タイトルの「幸福」とは何なのか、ぜひ読み終わった後にじっくり考えてみてください。それはきっと大切なあなたの一部になると思います。

インタビュー

- ①生活文化学部(福祉について学んでいます。)
- ②文芸祭で、サックスのアンサンブルで舞台にたったこと。
- ③④行事の一つ一つを大切にしてほしい。運動が苦手でも楽しんでください。みんなと何かするのも高校生が最後になるかもしれないので大切にしてください。

(保健体育科)

◆リチャード カールソン 著

『小さいことにくよくよするな！』 サンマーク文庫

本のタイトルの通りで、私の座右の銘でもあります！！「小さいことにくよくよしない」癖を身につけると、すばらしい人生になるかわかりませんが、あるがままの現実を受け入れられるようになります。これからみなさんの前にはさまざまな問題や壁が生じてくると思いますが、過去にこだわり続けますか、それともくよくよせずに気持ちを切り替えて次に進みますか！？これをよんであなたもポジティブな人間になりましょう。

インタビュー

- ①体育学部(体育・スポーツに関すること 一実技だけでなく指導法や体に関する知識など)を学んでいます。)
- ②部活動、学校行事。
- ③もう少しまじめに勉強する。学校外での時間を有意義に使う。
- ④部活動でも勉強でも友人と遊ぶことでも今しかできない熱中できる者を作り、全力で高校生活を楽しんでください。

(数学科)

◆ジュリアン・ハヴィル[著] 松浦俊輔[訳]

『世界で最も奇妙な数学パズル』 青土社

数学におけるパラドックスや、直感的に予想することとは異なる結果が得られる事項を細かいセクションに分けて簡単に紹介している本。バラエティ番組でゲストが1つだけ当たりの入った3つの箱のうち1つを選択したのち、司会者が残り2つのうち1つの箱が外れだと教えて確率はどう変わるのか(モンティ・ホール問題)や、エレベーターで上に行きたいときに限って下行きのエレベーターが来るというもどかしさから考えられた事項(ガモフ=スターンのエレベーター)等、日常に数学が使えるという良い例を教えてくれる。また、ポーカーの役が出る確率についてとても有用な事実が紹介されているので、このゲームで勝ちたい人も一読をお勧めする。

インタビュー

- ②部活動。私は剣道部に所属していたのですが、部長も務めさせていただいて、目一杯やったと考えています。
- ③予習復習のサイクルができていなかったこと。浪人まっしぐらの高校生活を送っていました。数学も英語も国語も物理も授業に置いていかれたと気付いた時にはもう遅い。もう遅いと思って開き直っていた自分は最悪でした。
- ④今やるべき事はしっかりやっておきましょう。もちろんクラブも勉強も両立させることが大切です。目的意識は大切です。自分が将来何をしたいかは常に考えておくと後々ラクだと思います。

(家庭科)

◆宮下奈緒 著『スコーレ No4』 光文社

913/M92/1

かわいい妹と比べてしまい、学生時代は自分に自信がなかった麻子。しかし、一人の女性として働き始めるころには、自分自身を受け入れ、自分の人生をゆっくりとしっかりと歩みだす。家族、恋愛、仕事・・・何気ない話ですが、これからの皆さんが必ず経験する出来事が麻子を通して書かれています。自分の身に置き換えて読んでみると、麻子にとっても親近感が沸き、ずっと持っておきたい！思える本です。とてもきれいな文章と心理描写で、読み終わった後にとっても前向きな気持ちになります。

インタビュー

- ①生活環境学部(家庭科の先生になるために勉強しています。)
- ②バレーボール！
- ③双子の妹と授業を交代して受けてみて！といわれたけれど、結局しなかったこと。笑
- ④北野は私の“原点”です！一瞬一瞬を大切にしながら過ごしてください。

(理科・生物)

◆長谷部誠 著『心を整える。』 幻冬舎

サッカー日本代表のキャプテンである長谷部誠選手は、サッカー選手としては特に特徴がある選手ではありませんが、常にあらゆる指揮官に重宝される日本代表の中心人物です。この本を読むとその理由がよくわかります。彼はいかなる場面でも自分の力を発揮できるように、常日頃から恐ろしいほど全身全霊をサッカーに捧げているのです。サッカー選手という華やかな職業の彼が、人の見ていないところで何をしているのか。自分の好きなことを職業として人生を歩んで行くことの、素晴らしさと厳しさがよく分かる本だと思います。

インタビュー

- ①生命医科学研究科(遺伝子工学を専攻しています。)
- ②オーケストラ部で毎日がんばりました。
- ③北野の授業をもう少し大切にしておけば良かったです。
- ④北野での日々、つらいことも多いと思いますが、この経験は将来必ず生きると思います。一生懸命がんばることを止めないでください。

(音楽科)

◆東野圭吾 著『手紙』 文春文庫

913/H50/4

服役中の兄と、その弟との手紙のやりとりを軸に、犯罪を加害者の家族の視点から描いた作品。犯罪者の弟というだけで、様々な差別を受ける。確かに犯罪者とは関わりたくない。そしてその血がつながっているんだから…と弟をも世間は受け入れようとしない。本当は関係ないのに。私たちの中にある差別意識について改めて考えさせられ、被害者ではなく加害者側という新たな視点からも見つめることのできる、深く心に残る作品。

インタビュー

- ①芸術専攻・音楽コース(音楽を勉強しています)
- ②皆勤(木の葉バッジもっています！！)
- ③北野高校に受かったことがうれしすぎて、入学してからもフワフワしていて、あまり勉強していなかったこと。最初から全力で勉強するべきでした。
- ④高校時代に仲良くなった友達とは今でも仲良く、一生の友達だなと思います。仲間を大切にしてください。